

第1回多摩市立複合文化施設等管理運営計画策定委員会 要点録

平成31年5月31日(金) 18:00~20:30

パルテノン多摩2階 市民ギャラリー

出席委員 17名

第3条(1) 4名: 伊藤裕夫氏、桑谷哲男氏、鈴木輝一氏、渡辺弘氏

第3条(2) 9名: 岩佐氏、岡村氏、片山氏、柴田氏、妹尾氏、新倉氏、濱田氏、
矢田氏、山本氏

第3条(3) 4名: 石坂氏、高橋氏、村松氏、浅野氏

議題	要点録	発言者
挨拶/委員紹介	① 財団や市が中心になり運営する施設ではなく、市民が活躍・活用できる施設を作っていけるよう、この委員会で議論いただきたい。	市長
次第1 本委員会の趣旨について/全体構成について	① 今後30年以上市民の文化拠点施設として継続していくため、建物だけでなく、運営の中身も見直し、新たなルールを作る必要がある。 ② 管理運営計画と文化方針の検討を同時に進めていく。	多摩市 多摩市
次第2 委員長・副委員長の選任	① 委員長: 鈴木輝一氏、副委員長: 伊藤裕夫氏を選任。あわせて、鈴木氏は管理運営計画分科会会長、伊藤氏は文化方針検討分科会会長を務めていただく。	多摩市
次第3 各分科会の委員構成について	<p>■ <管理運営計画分科会> 会長: 鈴木輝一氏、副会長: 渡辺弘氏、委員9名 <文化方針検討分科会> 会長: 伊藤裕夫氏、副会長: 桑谷哲男氏、委員7名</p> <p>① 近年大規模改修がとても多い。大規模改修では、開館当時から続くホールのコンセプトや思いがあり、人々の関わりが長い年月の中で、いい意味で変節してきた。単純に運営方針を変えるのではなく、これまでのあり方を含めた、コンセンサスをどう取るのか難しい点がある。それを共通認識として委員会を進めたい。</p> <p>② 改修後、30年、50年先まで使い続けるという話もあるが、具体的に考えられるのは10年程である。10年後にどうなるかイメージしてもらえると具体的な話が出てくる。まずは身近な未来を考えて運営方針を考えたい。</p> <p>③ ホールの管理運営と、市の文化振興方針を同時に考えることは画期的で、コンセプトが面白いと思った。「文化ホールがまちをつくる」が出され四半世紀が経ち、当時は文化ホールを中心に地域文化を作り上げてきたが、最近は、文化ホール以外で活動する機会も増えた。若者は、文化ホール入口のガラスに姿を映し、ダンス練習をしているように、文化ホールの役割が変わりつつある。地域の文化はそこに集まる人々が作ると考えている。その施設の在り方を委員と話して決めていきたい。</p> <p>■ 要点録の確認</p> <p>① 公表する</p> <p>② 名前は出すが、個別意見に名前は記載しない。</p> <p>③ 要点録作成にあたり、発言の際には冒頭に名前をお願いする。</p>	委員長 委員長 副委員長 事務局 事務局 委員長

<p>次第4 市の文化施策のこれまでとこれから</p>	<p>■資料に沿って説明</p> <p>① パルテノン多摩の役割は、これから先の文化施設や、多摩地区の役割としてもキーワードとなる。 パルテノン多摩ができた時、大規模ホールは多摩地域で珍しく、人が集まってきた。今は、周辺地域に多くの施設ができ、わざわざ来なくなった。これからは、多摩市民が力を出し合って新しいものを創造し、地域の誇りシビックプライドとして拠点となればよい。 パルテノン多摩は、駅から近く便利な立地である。多摩センター地域の他施設を含めたクリエイティブキャンパスの拠点となるよう、運営方針を考え反映させることが、この委員会のポイントととらえた。</p> <p>② 資料5〈基本計画〉を読み込んでいただき基本知識を学んでほしい。何が役割かという、「みんなが来て、見て、楽しんで」という広場になれるかがキーワードである。 多摩市は、駅から近い場所に、文化ホール・図書館・公園・商業施設があり、多様な施設になれる点がすごく有利。立地を生かした素晴らしい施設になるよう考えていく。</p>	<p>多摩市 副委員長 委員長</p>
<p>次第5 各分科会での今後の検討課題について説明</p>	<p>① 管理運営計画は、10月の全体会までに、方針の方向性を決めていきたい。</p>	<p>委員長</p>
<p>次第6 次回以降の全体会について</p>	<p>■ 第2回全体会：10月7日（月）18：00～</p> <p>■ 第3回全体会は、次回の全体会で決めるが、候補日として1月10・12・13日のいずれかで考えたい。</p>	
<p>次第7 意見交換 〈管理運営計画分科会〉</p>	<p>① 各自自己紹介をお願いします。</p> <p>② パルテノン多摩の活動は、ワークショップに参加して知った。今回のレクチャーで、パルテノン多摩のこれまでの運営などを学べ勉強になった。</p> <p>③ ワークショップに参加し、その後の運営が気になっていた。子育て中の親として意見を反映していきたい。</p> <p>④ 博物館のボランティアとして活動しており、これからの博物館の進め方が気になる。ボランティア代表として、意見を挙げたい。</p> <p>⑤ 多摩センター地区は、商業地域として発展し、人の集まる拠点としてパルテノン多摩が存在したが、近年は、高齢化や文化施設の分散化により、駅周辺の賑わいも縮小してきた。パルテノン多摩の再生が、人の集まる施設になるよう、勉強しながら進めたい。</p> <p>⑥ こういう場は初めてで緊張している。活動歴は浅いが、子供関係の活動でパルテノン多摩は利用させていただいた。活動する仲間の意見を反映させていきたい。</p> <p>⑦ パルテノン多摩の小ホールを借りたかったが、利用できる車椅子の規格があわず、借りることが難しかった。車椅子の人でも高齢者でも多くの人利用ができる施設にしていければと考えている。</p>	<p>会長 委員 委員 委員 委員 委員 委員</p>

	<p>⑧ 多摩市は、引っ越してきて住み始め、子育てをしながら好きになった。これまでの経験を反映したい。</p> <p>⑨ 資料7で紹介された、市民参画組織として活動してきた。パルテノン多摩の運営に、これからは市民が関わることが大切である。この委員会に市民がどれだけ関われるかが大切である。</p> <p>⑩ 施設を作るのではなく、まちを作ることが大切である。旅公演では、施設の利用時間など規則通りの対応では難しく、考えないといけない場面があり苦労した。規則を作るのも、そこで働くのも人であり、職員も働きやすく、誰でも利用できる、ぬくもりある施設にしたい。また、民間ホールと公共ホールでは、収支の厳しさが全く違い、公共ホールに移った際は愕然とした。人口減少など負の面から視たら、収入が減っていくことは避けられない。施設の使用料や、事業に対する支出も、自分たちで決めることができるのが指定管理者制度だが、安いだけでなく、市民も活動に負担することが大切である。</p> <p>⑪ パルテノン多摩は、多摩市文化振興財団が管理運営している。委員会では、委員の意見から、運営の基準を提言し、それを元に市が管理の基準を作り、多摩市文化振興財団に指導する。 これまでの劇場は観るところで、市民活動も、一部の市民のみが利用できる場であった。これからは、公共ホールのあり方も変化し、文化は人が集まる場所から生まれる。今までの劇場では、市民に文化が根付かない。市民の意見を取り入れ、市民にアピールし、みんなが使える広場になれば、活動理念を持った施設になれる。</p> <p>⑫ 次回以降の日程 ① 6/26 18:00 ② 7/29 18:00 ③ 8/22 18:00 ④ 9/12 18:00</p> <p>⑬ 次回までに、資料5を読み込むこと。 みんなの知っているパルテノン多摩を発表し、これからのパルテノン多摩で何をやりたいか発表する。</p> <p>■ 市への要望⇒この2年間のジャンル別利用統計を用意。</p>	<p>委員</p> <p>委員</p> <p>副会長</p> <p>会長</p> <p>会長</p> <p>会長</p>
<p>次第7 意見交換 〈文化方針検討分 科会〉</p>	<p>① 次回以降の日程 ① 7月9日 18:00 (後日、調整を行い7月5日より7月9日に変更となりました。) ② 9月30日 18:00 ③ 次回以降調整 ④ 12月20日 18:00 (仮予定)</p> <p>② 文化祭で市民作品展の展示会を過去五回ほどやった。多摩市では見られないような作品が見られるのが特徴で、若者も参加している。ただ絵を飾るだけでなく、その場で売買するライブ感覚も、若いアーティストの育成に貴重な機会になる。</p> <p>③ 行政は売買に対し、否定的なところがあると思う。経済と文化のつながりも含め、どこまで方針等で示すことができるのかが1つのポイントになる。</p>	<p>会長</p> <p>委員</p> <p>会長</p>

④ 文化協会の現状もポイントで、地域によって状況は様々。地域の文化協会の役割は重要だ。議論の中で、どう位置付けを行うか検討できればよい。	会長
⑤ 子供達が合唱や合奏などで、大きな舞台に立つ経験というのが子どもの成長にとってとても重要。もちろん障がいをお持ちの方や高齢の方も含めて、包括的な文化の環境を意識的に作っていききたい。また、みんなでなにかを作る空気感を形にしていければと思う。	委員
⑥ パルテノン多摩とのかかわり方は人それぞれ。経験や方向性の違いでお互いの活動を否定しあうことのないように、条例や方針でパルテノン多摩の役割を示すことが大切。	委員
⑦ パルテノン多摩を利用しない人は、改修にかかる税金を無駄と感じる。パルテノン多摩が、学校や公民館にアウトリーチする方針を示し、享受できる人を増やしたい。	委員
⑧ ピアノ演奏者として、パルテノン多摩で演奏した印象として、年配の方が多。若い世代が聴きに來られるクラシックができたらと考えている。アウトリーチは未経験だが、小学生に向けての事業は、子どもたちにとって、とても良い体験になると思う。	委員
⑨ 音楽のアウトリーチをいくつか見せてもらう機会があったが、ここまで徹底して子どもたちとコミュニケーションをとるのかと、とてもびっくりした記憶がある。一方で演奏者側には抵抗感を持つ人がいると思う、そのバランスがポイントになると思う。	会長
⑩ 関心がないのは恩恵を感じることができないから。基本的な問題として、平等に税金を納めている中で恩恵を受けるところに差が出ているということが大きい。全員が劇場に行くわけではなく、でも「私はいかないけれど理解が合って支援をするよ」という人がいても良いと思う。行かない人からしてみれば、地域が活性化すれば良いと思う一方で、恩恵を受けている人は劇場が活性化すれば良いと思う人も居る。そういう意味では、グランドデザインを考えないといけない。ただ木を植えていっても森にならない。森のデザインを描いて何を植え育てるか考えなくてはならない。	副会長
⑪ 子どもたちは、小さい時から劇場自体が近寄りやすい、敷居が高いということが前提になっていることが大きい。小さい時から劇場にかかわり、関心を持ってくれるかという仕掛け作りが必要である。座・高円寺では読み聞かせ事業や、小学校4年生を招待することを通して劇場に関心を持ってもらう仕掛けを作っている。「劇場は人に投資をする」ことだと思う。子どもたちは作品を観て聴いてという体験を通して、人に優しくなる、思いやりがもてることにつながると思う。	副会長
⑫ 鶴見俊輔氏の「限界芸術」や、岡本太郎氏の「芸術は大衆のものだ」という言葉にあるように、全て始まりはエンターテイメント、楽しむということ。エンターテイメントを通して得た感動や楽しさといった経験が、自分の中で熟成され育ったものが知識となる。それが、エンターテイメントが芸術に生まれ変わる瞬間で、芸術は知性と言っても良いのだと思う。 パルテノン多摩も、そういう意味ではエンターテイメントを体験する場所としての役割を担って良い。大切なのは、こういった視点を	副会長

	<p>変えることで新しい概念が生まれてくる。ここでは既成概念にとらわれない新しい概念が生まれる場になればと思う。</p> <p>⑬ 私が関わって面白いと思ったのは、小金井市の文化振興計画で、施設が立つ前に制定され、文化施設に関する記載が入っていなかった。その中で主に記載されているのは、ハートフルアクションというアートNPOの活動だった。地域を巻き込んで様々な活動をしている利用団体とホールが、どう手を組んで活動するのが議論の大きなテーマになっていた。ホールも大切だが、ホール以外で展開する活動と、ホールがどう結びついていくべきなのかというところが地域の文化をつくっていく上で大きなポイントになると思う。時代の変化の中で新しい動きが出てきている中で、日本の文化は1970年代のものが今でも基準になりすぎているのではないか。いまの若い世代も含めて、多摩の文化をどうして行くのかを考えていければと思う。</p> <p>⑭ 第1回は、情報共有ということで、パルテノン多摩の改修の理念や、多摩市全体の文化施策について議論を行い、文化活動の実態について勉強する形で情報共有する。</p> <p>⑮ 第2回は、文化政策の全国的な動向ということで、文化政策に絞って議論ができればと思う。「文化条例政策とスポーツ条例政策」という本があり、資料としても役に立つ。各地の条例にも特徴があるものや、国と全く同じのものもある。多摩市としては特徴があるものを作れればと思う、どういう規則がいいのかを考えていければと思う。</p> <p>⑯ 市民文化の現在について知るのも重要だ。たとえば音楽であれば、アウトリーチも含めて、従来の演奏技術だけでなく、社会との付き合い方や、アートマネジメントとしていかに活動しているか学んでいくことが必要になってきた。さらに、社会包摂というところで、外国人や子どもたち、障がい者の方が馴染みにくかった環境を、いかに変えていくかということも盛んになってきた。国の政策も変化しているように、市の民文化活動もどう変化していくのかを知ること、議論のポイントになって来る。10月までは勉強会中心になると思うがよろしく願います。</p>	<p>会長</p> <p>会長</p> <p>会長</p> <p>会長</p>
--	--	---